

# 夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

## はじめに

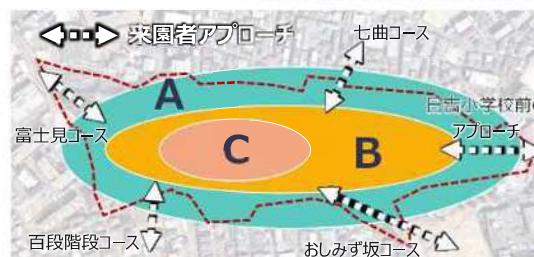
夢見ヶ崎動物公園は、昭和25年開園、昭和47年に動物の飼育・展示を開始した、広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。

平成30（2018）年3月に「夢見ヶ崎動物公園基本計画」を定めましたが、その後の様々な社会変容を受け、令和4（2022）年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」を定めて再整備の内容を見直し、市民の意見聴取、民間事業者との対話を重ね、令和6（2024）年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」を策定しました。

本計画は、これを踏襲しながら、動物公園としての役割を改めて見直し、施設の配置や、より具体的な整備内容、中長期的な視点も踏まえた事業推進や管理運営の手法などについて示しています。

## 公園の立地・現況

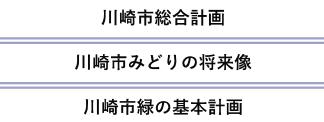
標高35mの丘陵地（加瀬山）に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、里山樹林・公園・動物園の3つのエリアで構成され、多様な特性を有しています。市内で唯一の動物公園であるとともに、古墳など歴史資源が存在し、お花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。



## 計画の位置付け

### ■上位関連計画

本計画は関連計画・法令との整合を図りながら策定します。



**夢見ヶ崎動物公園再整備計画**  
・整備方針  
・整備内容  
・スケジュール、事業費

夢見ヶ崎動物公園基本計画（H30）  
・将来像、コンセプト等

夢見ヶ崎動物公園  
再整備の基本的な考え方（R4）  
・整備の考え方の整理

その他関連計画等  
・希少野生動植物種保存基本方針（環境省）  
・神奈川県鳥獣保護管理事業計画  
・川崎市文化財保存活用地域計画  
・新・かわさき観光振興プラン  
・生物多様性かわさき戦略  
・川崎市環境教育・学習アクションプログラム  
・川崎市民間活用（川崎版PPP）推進方針  
・パークマネジメント推進方針  
・資産マネジメント方針

主な関係法令  
・都市公園法  
・獣医療法  
・動物愛護管理法  
・種の保存法  
・鳥獣保護法  
・地域生物多様性増進法 等

## 対象区域

本計画は、民有地などを除く、**夢見ヶ崎動物公園全体を対象区域（6.6ha）**とします。



## 計画期間

再整備計画の対象期間は、**計画策定から概ね10年**としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

## 現況・周辺状況

### 基礎情報

所在地：幸区南加瀬1-2-1

公園面積：6.6ha

公園種別：地区公園

開園日：昭和25年4月1日

動物展示開始：昭和47年11月22日

展示動物：51種272点（令和7年10月時点）

入園料：無料

### 連携の現況

センター・ボランティアの方々、教育機関など**多様な主体と連携した取組**を行っており、**活動のフィールドとして利用**しています。

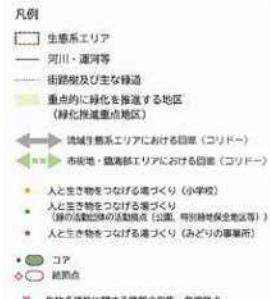


多様な主体との連携協働

教育機関などの連携

### 生物多様性かわさき戦略での位置付け

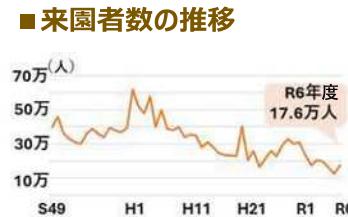
市街地・臨海部エリアにおける回廊（コリドー）における拠点（コア）であり、**生物多様性に関する情報の収集・発信拠点**としての役割も担っています。



## 利用状況・収支状況

ピーク時(昭和63（1988）年)の来園者数は60万人を超えていましたが、**近年は10～20万人程度で推移しています。春(3～5月)及び秋(9～11月)に来園者数が増加する傾向にあります。**

園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、**動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯**があります。過去5年間(令和2（2020）年度～令和6（2024）年度)の平均収入額は一時使用料などにより約16万4千円であり、また、支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。



## 「いのちを感じる」夢見ヶ崎動物公園

平成30（2018）年 夢見ヶ崎動物公園基本計画  
**「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」**

令和4（2022）年  
夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方

令和5（2023）年～令和6（2024）年  
夢見ヶ崎動物公園再整備骨子 「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」

再整備により "都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"としての**動物公園**を創造します。

加瀬山が持つ、ここにしかない「いのちを感じる」資源



### 基本方針① 緑と人が出会う



- ・ 土地の記憶から自然の営みを実感
- ・ 樹林に暮らす動物・鳥類・昆虫
- ・ 生きものとの共存を考える機会
- ・ 身近な鳥獣保護区が住民の誇りにつながる

### 基本方針② 人と人が出会う



- ・ 世代の異なる人々との関わり
- ・ 健康づくりや生きがい創出
- ・ 伝統や文化などの人の営みを実感
- ・ 歴史と平和の大切さを伝える

### 基本方針③ 生きものと人が出会う



- ・ 気軽に飼育員さん、園長さんに出会える環境
- ・ 動物のリハビリを知り、関われる
- ・ 都市の中で、様々な動物と会える
- ・ いつでも、何度も、ゆっくり、じっくりいのちと向き合える



公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応が必要となっています。再整備にあたっては、**オープンスペースの利用の多様化、持続可能な管理運営の仕組み、アニマルウェルフェアや環境への配慮などの視点**を踏まえる必要があります。



先行整備をした  
パークセンター



動物舎の老朽化

### ●施設の老朽化や不足による課題（部分的に先行整備を実施）

園内のバリアフリー化の不足／動物展示の魅力低下／アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分／駐輪場や駐車場の検討不足など

### ●サービス面の課題

「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足／地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足／加瀬山の様々な文化財の活用不足／魅力発信事業の不足

### ●持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

コレクションプランの検討が不十分／飼育のノウハウの継承が不十分／持続可能な管理運営のための財源確保の課題

## 再整備の基本的な考え方

夢見ヶ崎動物公園は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、**市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施します。**



- ・ 地球環境を大切にする行動へつながる
- ・ 自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ
- ・ 自分や他者を大切にする気持ちを育てる

加瀬山の**多彩ないのち**を体感できる  
施設整備と運営管理を実現

## 再整備の基本的な考え方

3つの基本方針に基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境をつくります。

### 基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

#### いのちを育む加瀬山の緑に親しむ



協働による樹林管理活動

#### 里山樹林 整備イメージ



発生材を活用した解説板

- 市民協働による樹林地管理の活動を支える施設や休憩場所を設置
- 日常的な散歩・散策で自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと会える安全管理や地域の憩いの空間づくり
- 活動で発生した自然資源を活用し、樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板

#### ■「いのちを感じる」プログラムの例

##### 加瀬山のいのちの歩みとは？

今いる生きもの、昔いた生きもの・植物などを知り歴史と自然にふれる

##### 加瀬山の自然を五感で感じる

自然の心地良さを五感で感じ、自然の大切さ、保全の重要性を学ぶ

みる きく ふれる

##### 昆虫教室(広島緑化センター)

みる かぐ ふれる

##### 樹林ボランティア(夢見)

### 基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

#### いのちを大切にする行動につながる



パークセンターの地域活用



子ども達が集う遊具

#### 公園 整備イメージ

- 来園者や動物が公園内を安全に散歩できる園路、夏の暑熱環境に対応した休憩所などの施設整備
- 顔となる遊具などを中心として自然と人が集まつくる柔軟な遊びの空間
- 市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備
- 広場やパークセンターは夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなどに活用が可能な空間とする

動物の得意！  
を披露  
見て・聴いて驚き、  
感動する

- 人と関りが深いロバが人と一緒に歩く様子を観察
- 鳥の羽や羽ばたきを観察
- 動物を観察し、動きや習性に驚き、学ぶ

みる



ロバの散歩 (京都市動物園)

みる きく



バードショー  
(松江フォーゲルパーク)

### 基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

#### いのちの鼓動に心が動く



いのちを伝えるサインの工夫

#### 動物園 整備イメージ



いのちを守る取組を身近に感じる施設

#### 整備イメージ

- 触るだけではない「ふれあい」を提供する、アニマルウエルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境の情報発信
- バックヤードの整備や暑熱対策など、働く環境の充実
- ゆっくり観察ができ、居心地よく利便性のある空間づくり
- 調理場やリハビリ施設の一部が見学できる、いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置

みる かぐ 味

#### エサづくり体験 (市川市動植物園)

みる



みる



保護鳥獣の観察  
(猛禽類医学研究所)



## ゾーニングと施設配置計画

現状のゾーニングを活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

## 里山樹林

## 緑と人が出会うゾーン

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

【再整備を検討する主な施設】

- (A) 樹林管理の拠点
- (B) 階段・散策路
- (B) 児童公園
- (C) 駐車場



## 公園

## 人と人が出会うゾーン

家族と、友人と、地域の人と交流する  
【再整備を検討する主な施設】

- ① 「う回路」入口・パークセンター南側
- ② 駐車場からの入り口
- ③ 展望広場
- ④ エントランスのロータリー
- ⑤ 慰霊塔付近
- ⑥ 芝生広場
- ⑦ 慰霊塔前広場



## F憩いの拠点

- 富士山、街への眺望
- シンボル的なデザインのトイレやゲート、休憩施設



## 動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】

- K 広場、動物展示、動物病院、調理室など



## ④交流の拠点

ワクワク感を演出するサイン、公園から動物エリアへの誘導サインや案内板



動物モチーフのサイン  
(のんほいぱーく)

エントランスの演出  
(盛岡市動物公園)

## ①にぎわいの拠点

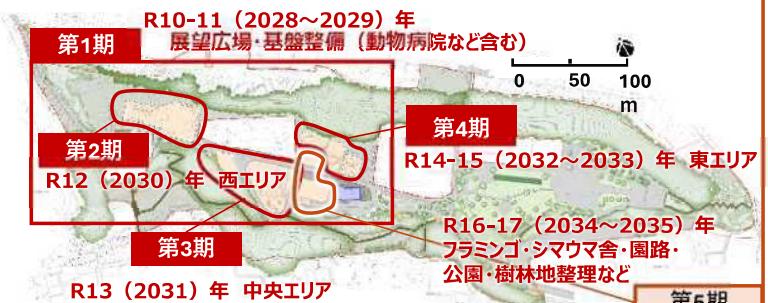
芝生広場での遊び、舗装広場でのイイハネなどのための園路や休憩施設



芝生広場  
(夢見)



## ■第1～5期 段階整備の計画



## 植栽

- 既存の緑陰を活かしながら剪定を実施
- 施設や公園利用の支障となる樹木を適切な位置に更新
- 樹林管理活動で出た発生材の有効活用の検討

## 動線

- 通過、散策など“たまり場”的バランスに配慮
- 安全に楽しながら歩ける舗装の整備
- 緊急車両、避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

## 公園全体

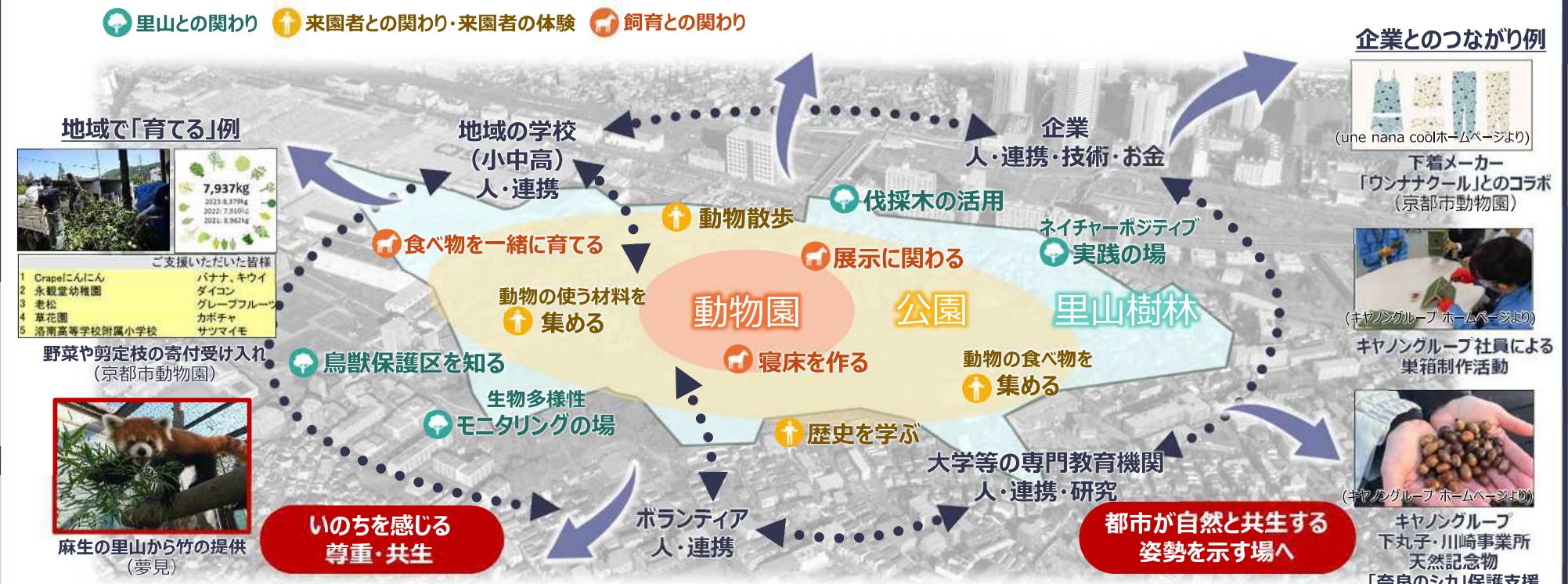
- 園内に散在する歴史的資源や加瀬山の自然の保全
- 各所に動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の発生材を活用した作品などを設置



発生材アート作品  
(吉野ヶ里遺跡)

## 地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します。再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、企業・大学と共に新しい夢見を育てていきます。また、環境や社会貢献のメッセージを発信する場として機能し、都市が自然と共生する姿勢を示す場として地域や来園者に新しい価値を提供します。



## 地域とのつながり例

\*赤枠：既に夢見で取組が始まっています。



慶應義塾大学大学院  
ワークショップ（夢見）



近隣企業による地域  
貢献活動（夢見）



東京農業大学による  
保護鳥獣研究（夢見）



川崎総合科学高校による  
展示の協力（夢見）



加瀬山の会の門松作成  
(夢見)

## 動物公園内の循環の例



園内の樹木の葉で  
巣作り（夢見）



果樹の栽培  
(渋川動物公園)



来園者からの  
ドングリの寄付  
(大宮公園小動物園)



飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラムなどを可能とするため、飼育動物の繁殖・調整を進め、**将来的に計35種 (+a) を継続して飼育する方針**とします。また、動物園としての魅力向上や来園者ニーズへの対応、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）コレクションプラン掲載種など、**国内の園館で種の保存や飼育展示が求められる種は、今後も新たな種の導入を継続的に検討**していきます。コレクションプランは、**社会情勢や飼育個体の保全状況などを踏まえ必要に応じて柔軟に見直します。**

※国際自然保護連盟（IUCN）  
レッドリスト分類（絶滅の危険性）  
**CR** = 深刻な危機 **EN** = 危機 **VU** = 危急  
※JAZAコレクションプラン  
指定種 **JSMP** = 管理種 **JSB** = 登録種

概算工事費用

計画期間の概算事業費は、概ね次のとおりです。

■ 全體概算事業費

項目	適用	金額 (億円)
獣舎	レッサーパンダ舎・ベンギン舎・サル舎・インコ舎・小動物舎等	28.2
バックヤード	動物病院・動物隔離施設・調理室等	6.9
広場と遊具	遊具・休憩施設・芝生・小公園等	3.0
利便施設	トイレ	0.5
全体	園路・給排水・電気・埋蔵文化財調査・撤去費等	14.6
総額		53.2 億円

※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります

## コレクションプランの考え方

飼育継続	考え方	動物園としての役割・取組内容など	動物種の例
	新規導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種</li> <li>近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種</li> <li>人気種等市民ニーズの高い種</li> <li>魅力増進に対応する種</li> </ul>	<p>種の保存・野生生物保全調査・研究</p> <p>教育・環境教育レクリエーション</p> <p>情操教育、環境教育など</p> <p>川崎市環境教育・学習アクションプログラムなどへの貢献</p> <p>生物多様性かわさき戦略などへの貢献【35種】</p> <p>【+○】</p>
現飼育個体をもつて		<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖や新規導入が困難な種</li> <li>他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種</li> <li>外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種</li> </ul>	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種の保存や個体の状況などを勘案し、他の飼育継続する種の飼育スペース確保のため繁殖させず終生飼養する</li> <li>園内で繁殖ができず、国内の他園からの導入も困難な種（血統が近い個体しかいない・個体数が少ないなど）は現個体の終生飼養後に飼育を終了する</li> <li>飼育終了までアニマルウェルフェアに配慮し、健全な飼育・展示環境の維持向上に努める</li> <li>外来種、特定外来種等は飼育種としての定着を想定しない</li> </ul>

## 事業手法・運営手法

- ・飼育動物を移動させながら行う段階的整備が必要となり一括発注の効果が限定的となること、動物舎等の特殊性から民間活用によるコスト・工期の削減も期待できないことから、市内事業者の参画が見込まれ、地域経済活性化にも寄与できる従来(設計・施工分離発注)方式により整備を実施します。
  - ・獣医療・種の保存・飼育など専門性が高い業務は引き続き市が直営で実施します。各種プログラムの実施、駐車場などは民間パートナーとの協働により充実させます。

#### ■民間事業者との連携範囲



スケジュール

**再整備計画を令和8（2026）年5月に策定し、整備に向けた基本設計などを進め、令和10（2028）年度から飼育動物を移動させながら、段階的に整備を進めます。**